

平成 31 年 4 月の解説（府県天気予報）

【4 月の天候状況】

月平均気温は、東日本で低く、沖縄・奄美では高くなりました。月降水量は、北日本で少なく、沖縄・奄美では多くなりました。月間日照時間は、北日本でかなり多く、東日本太平洋側と西日本では多くなりました。

上旬は、北日本から西日本では、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わり、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となって寒気の影響を受ける日が多くなりました。また、太平洋側を中心に高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。沖縄・奄美では、高気圧と低気圧が交互に通過して天気は数日の周期で変わり、高気圧に覆われて晴れの日が多かったものの、南からの暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、降水量も多くなりました。

中旬は、北日本では、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりましたが、高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。また、低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだ影響により北海道で夏日となった所がありました。東日本と西日本では、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わり、高気圧に覆われて晴れの日が多くなりましたが、大陸からの冷涼な空気の影響で気温が平年を下回った時期がありました。また、低気圧の影響が弱かったことから降水量は少なく、特に西日本日本海側ではかなり少くなりました。沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、全国的に高気圧と低気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わりました。東日本と西日本では、低気圧や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。また、旬の前半を中心に南からの暖かい空気が入りやすくなりましたが、26 日から 27 日にかけて北海道で雪の積もった所があるなど、北日本から西日本にかけて寒気の影響を受けた日もありました。沖縄・奄美では旬を通して南からの暖かい空気が入りやすかったため、平均気温はかなり高くなりました。

【4 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)よりも 3 ポイント高い 88%で、明後日予報は例年値よりも 1 ポイント高い 83%でした。地方別の適中率では、明日予報は東海地方と北陸地方以外の各地方で例年値を上回りました。明後日予報は東北地方、東海地方、北陸地方と沖縄地方以外の各地方で例年値を上回る、もしくは例年値と同じとなりました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4℃小さい 1.5℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.3℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6 月の天気予報の利用にあたって】

例年、6 月は、南西諸島付近に停滞していた梅雨前線が次第に北上して、九州や四国、本州付近に停滞することが多くなります。平年では上旬から中旬頃にかけて、西日本、東日本および東北地方で梅雨入りとなりますが、梅雨入りの時期や梅雨の期間、天候経過などは年によって違いがあります。

梅雨の時期は他の季節に比べ、大雨が発生しやすく、山崩れやがけ崩れ等の土砂災害、河川の増水や氾濫などの災害をもたらすことがあります。雨の天気予報が出ているときには、最新の気象情報や、大雨・洪水の警報・注意報などに留意してください。